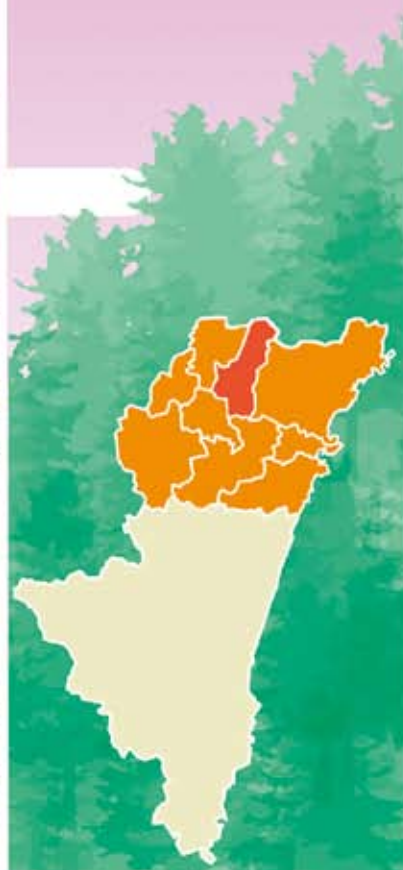
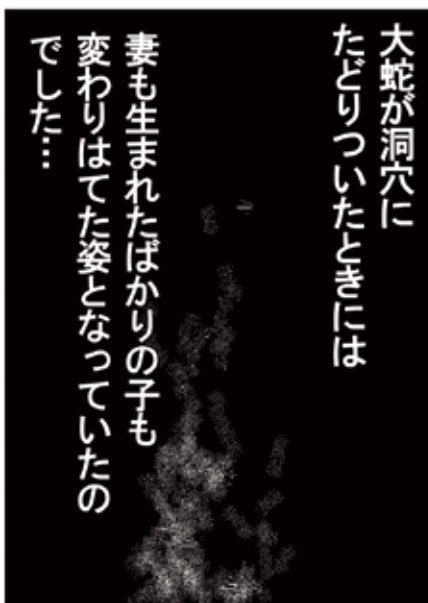
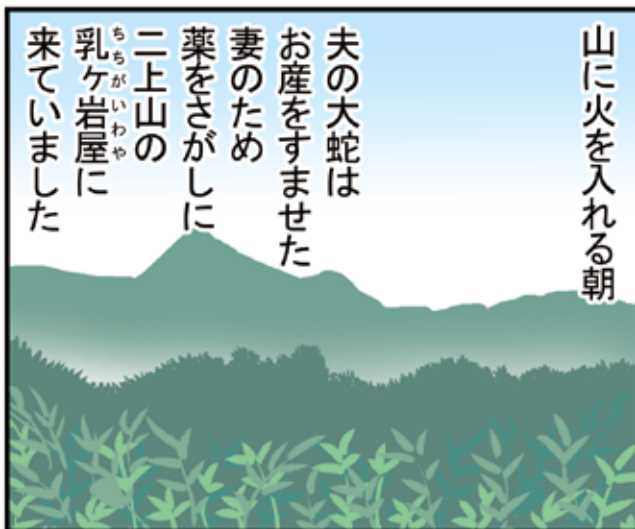
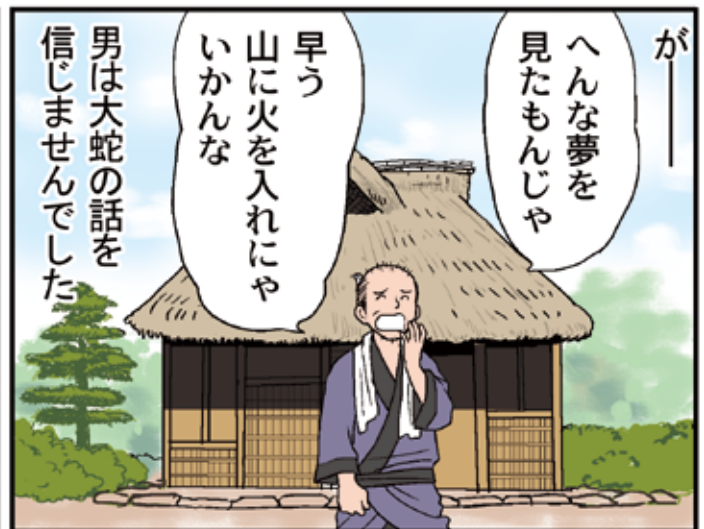
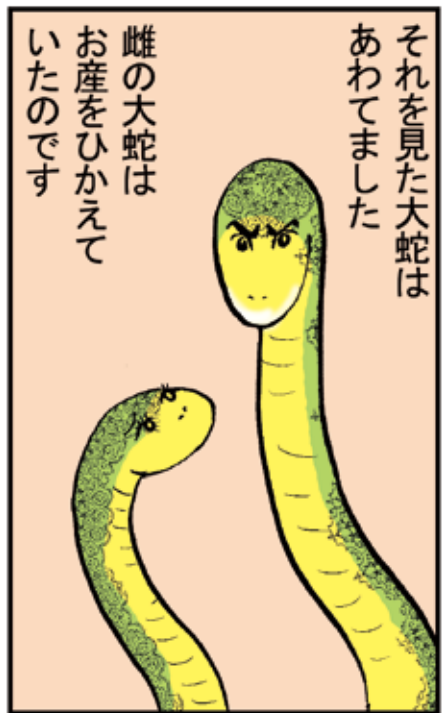


日之影町

逆巻龍神伝説





男の仕打ちに
怒り狂った大蛇は

その日の夜中
男の家に巻きつき

全てを
こんなにしてしまいます

命からがら逃げだした男は
全てを失い――

その後も
男の家では災いが長く
続いたのです――



なぜこんなことに

はっ

あのときの
蛇のたたりか!?

お産が近いと
言うておった

※
むぞなきいことを
したもんじゃ…

※かわいそうな

男は火を入れたことを後悔し
大蛇の無念を慰めるため
山の斜面に祠を建て
逆巻大明神として
祀ることにしました

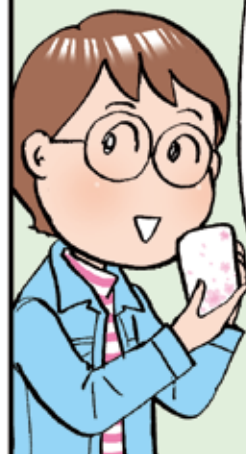


そして
その後ずっと男は
朝に夕べに
大蛇の靈魂に祈りを
ささげたということです

今も日之影町では
祠に礼拝し大蛇の霊を
なくさめる人が
いるそうです



というのが
逆巻龍神伝説です



私は日之影町出身なので
この話を子供の頃から
聞いて育ちました

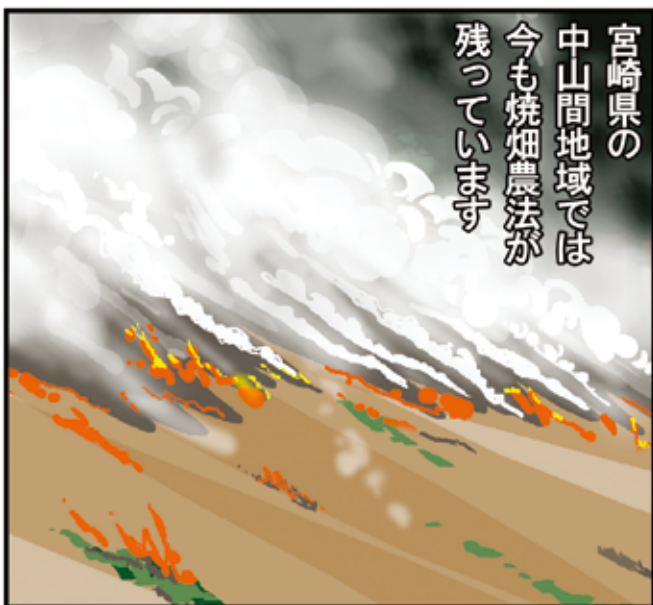
子供の頃は蛇がかawaiiそうで
生き物をいじめてはいけない
—という話なのかな
—とっていたのですが

大人になってから
考えると

この話、実はもつと
奥が深いと思いました



宮崎県の
中山間地域では
今も焼畑農法が
残っています



焼畑という

草地をバーツと焼き
灰を肥料にして
作物を作る

というイメージを
もつ人が多いのですが

日本の山の
焼畑はそれとは
違います

山を再生させる一つの
方法なのです

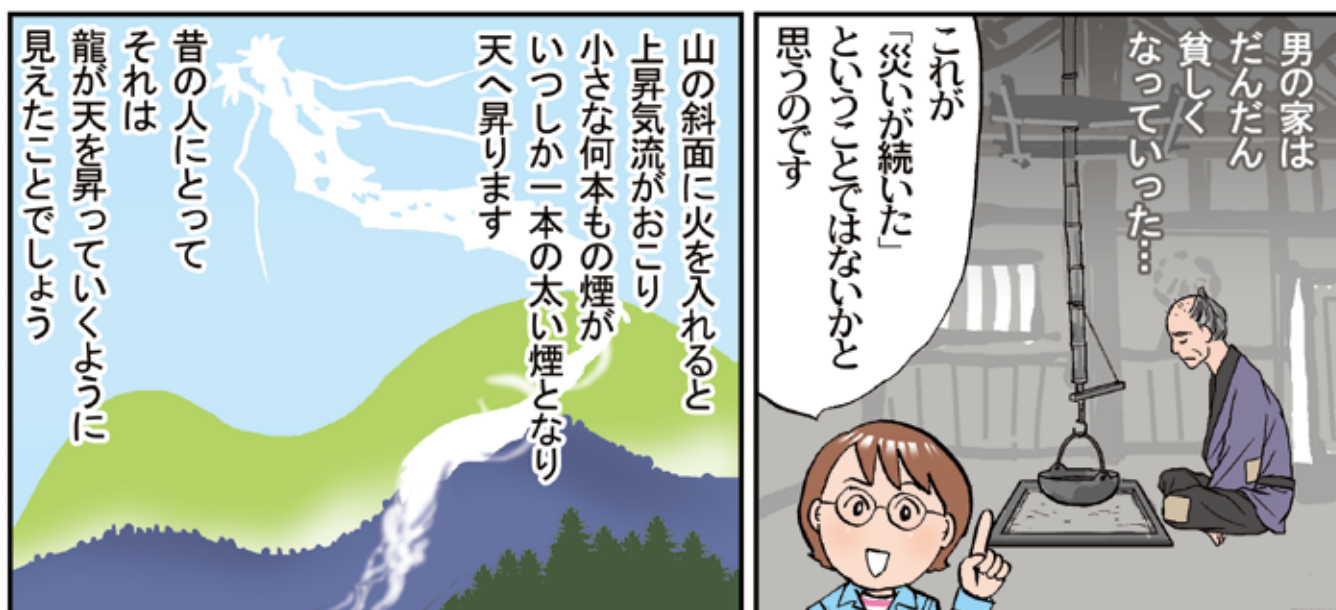
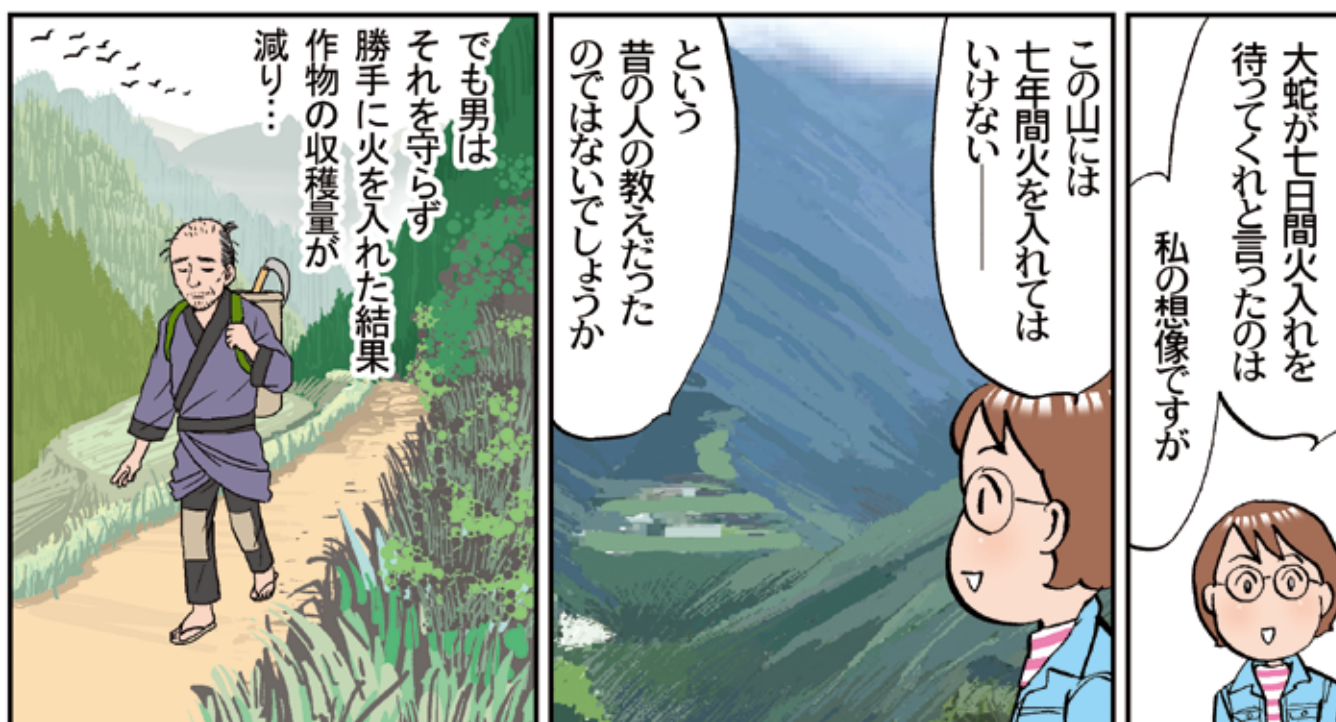


火を入れて山が焼けると
ある一定温度以上にならないと
発芽しない種子が芽びきます
悪い病原菌などは死に
灰が土壌の性質を変えてくれます

まさに
「山が生まれかわる」
のです

そして
火入れから
一年目二年目三年目...と
年ごとに育つ植物も
変わってきます





今でも
逆巻龍神の祠は
切り立った崖の
中腹にあります

日之影町出身の私ですが
今回初めて訪れました

今も村の人は
朝夕の礼拝を欠かしません
つて言われてるけど
こんな危険なところに
毎日来る人は
いないんじゃないの？
と思っっていたら…

祠にはお参りをした
形跡がありました！

すごい！
こんなけわしい
ところ…

昔の人の教えを
大切にしている
ですねー

ホント
すごいわー

昔の人は
自然のサイクルを守ることを
教えています

それは
自然に手を入れない
ということではありません
自然によりそい
山の手助けをすることでも
あるのです

山に火を入れるのは
植物や虫や微生物の力を
少しあとおしすることなのかも
しれません

